

近頃、タイムパフォーマンス（タイパ）という言葉をよく耳にするようになった。学校の掲示板上にも「就職活動はタイパ重視」と書かれた標語を目にするようになり、改めてタイムパフォーマンスを検索してみると、“かけた時間に対する効果”や“時間対効果”という意味があり、最小限の時間で最大限の効果を得るか、いかに効率良く物事を達成するかと理解した。このタイパは、大学の研究室配属の際にも重要視されていると感じ、配属対象者らの中にはタイパが良いところを希望する方も多い。このタイパが重要視される理由には、研究室での活動時間は程々にして、プライベートな時間を増やしたい思いもあるようで、これもまた1つ時代の移り変わりとともに大切なことと感じさせられた。一方で、私たちの研究室では有機合成を生業とした研究活動を行っているが、タイパを重視して配属研究室を選ぶ学生さんらが多くなると、いささか分が悪い。

考えるに、有機合成は、反応を始める際の試薬の仕込みや、反応に時間がかかる。そして、反応が終結すれば実験は終わりとはならず、その後の反応の後処理に続き、精製工程がある。この工程にはたびたびシ

リカゲルカラムクロマトグラフィーを用いるが、ここにもまた時間を要する。そして、単離精製後に、ようやく化合物同定のための測定となる。各操作にはそれぞれ意味があり、いずれも省くことはできないが、時間がかかるがゆえに、複数の実験を組み合わせながら、いかに効率良く実験を行うかが極めて重要となる。この意味では、有機合成もタイパが大切だと言えるが、必ず効果が伴うとは限らない。しかしながら、効果ばかりを考えていても何も始まらないので、行動すること（手を動かすこと）も大事だと思う。

タイパが重視される世の中になってきたが、教育と研究を並行して行う学術機関では、社会に求められる価値観を必ずしも強いることなく、タイパを追求する必要はないこともある。たとえ時間はかかっても様々な実験をして失敗しながら学ぶことや、その過程も大切に感じる。目先のタイパだけでなく、先の長い将来のために、時間という資本を自らに投じて、知識や技術、経験といった力を付ける。それが目一杯できるのが学術機関なのではないかなと脳内で思案しながら掲示板を眺めている。

(兵藤憲吾)

カラー写真ご提供のお願い

化工誌編集委員会

本誌の目次や編集者の独り言下に掲載するカラー写真を広く会員の皆様からのご投稿をお願いしています。ご投稿いただいた写真は編集委員会で適宜選択して使わせていただければと考えています。ご投稿の際にはごく簡単な説明をつけていただき、電子ファイルの場合には高解像度のもの（300DPI以上）をお送り下さい。

以下のような写真のご提供をお待ちしています。

1. 季節感のあふれた風景・草花・野鳥・動物の写真など
2. 化学に関する写真—カラフルな物質、化学模型、電顕写真、実験機器、化学プラントなど

送付・問合せ先：101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5
日本化学会 学術情報部 「化学と工業」誌担当
FAX (03) 3292-6319 E-mail: kakoshi@chemistry.or.jp



東京大学大学院理学系研究科附属植物園（小石川植物園）のキンボウゲ 周 泓遥